

# 重層的支援体制整備事業における アウトリーチ等を通じた継続的支援事業について

厚生労働省 社会・援護局  
地域共生社会推進室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

- **事業の概要について**
- 対象者の考え方について
- 事業の実施例について

## 事業目的

- **支援が届いていない人に支援を届ける**

複雑化・複合化した支援ニーズがあり、必要な支援が届いていない人に支援を届ける。

- **支援関係機関とのネットワークや各種会議、地域住民とのつながりの中から潜在的な相談者を把握する**

各種会議、支援関係機関との連携を通じて、地域の状況等にかかる情報を幅広く収集するとともに、地域住民とのつながりを構築する中で支援ニーズのある者を把握する。

- **本人との信頼関係の構築に向けた支援に力点を置く**

本人と直接対面したり、継続的な関わりを持つために、信頼関係の構築に向けた丁寧な働きかけを行う。

## 事業の基本的な考え方

- 長期にわたりひきこもりの状態にあるなど、**複雑化・複合化した支援ニーズを抱えながらも必要な支援が届いていない人や、支援につながることに拒否的な人に支援を届けるための事業**
- 本事業において支援する事例の多くは、**本人とのつながりを形成すること自体が困難であることを踏まえ、本人と関わるための信頼関係の構築や、つながりの形成に向けた支援を行う。**

## 支援内容の概略

### 支援関係機関や地域住民等を通じた情報収集

潜在的なニーズを早期に発見するために、支援関係機関や、地域住民等と連携し、地域の多様なつながりの中から潜在的な相談者や課題を抱えた人を把握する。

### 事前調整

本人に同意を得る前の支援として、支援関係機関等からの情報収集や、見守り等の支援ネットワークの構築、本人と関わるためのきっかけ等を入念に検討する。  
※必要に応じて、構成員に守秘義務がかけられた支援会議を活用

### 関係性構築に向けた支援

本人やその世帯とのつながりを形成するために、手紙を置いたり、メールやチャット等でのやりとり、支援等の情報のチラシ等で情報提供するなどの継続的な対応を行う。

### 家庭訪問や同行支援

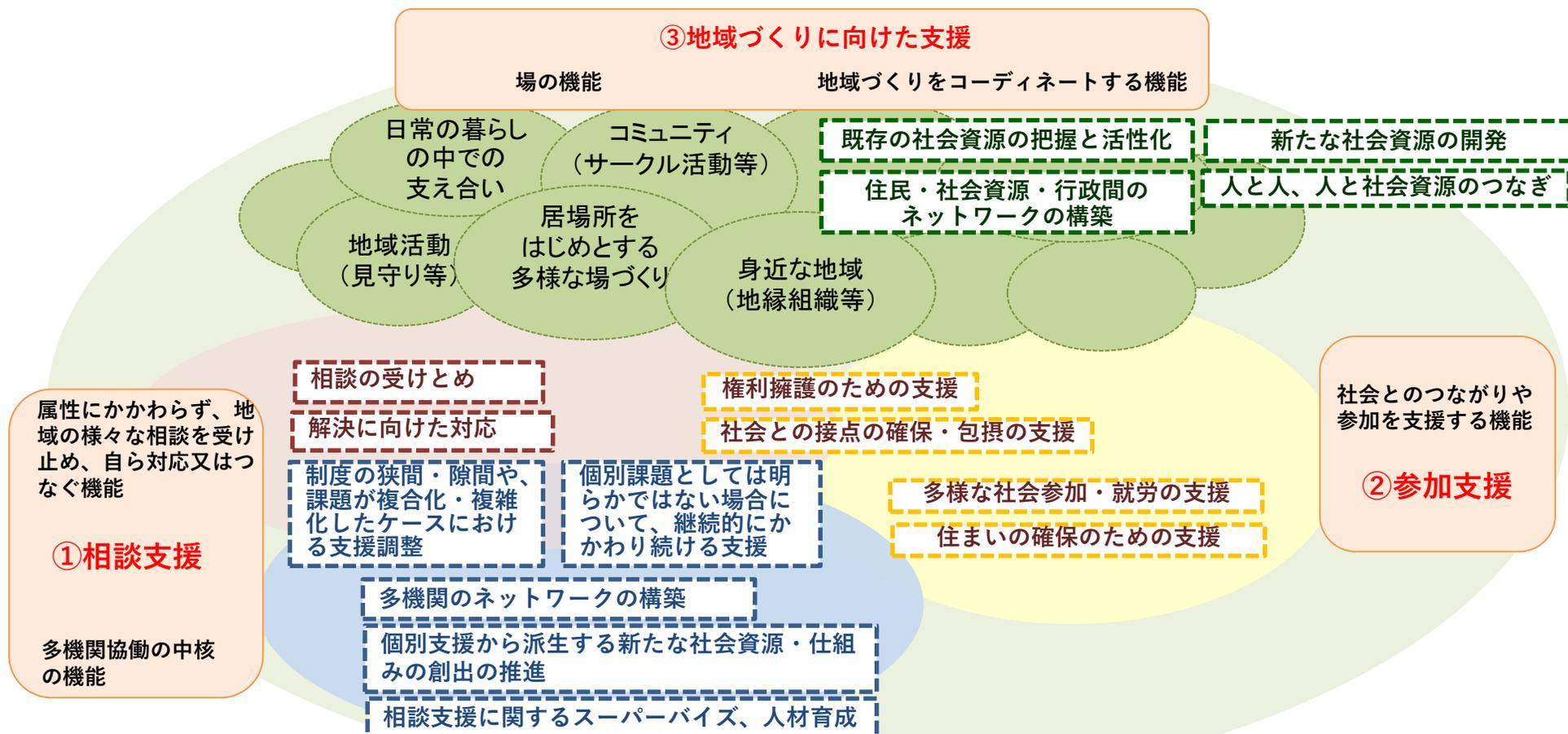
本人と出会えた後も、自宅から出ることが困難な者や他の支援関係機関等につながる事が困難な場合に、自宅への訪問や、必要な支援機関への同行支援などの支援を行う。

### 終結

本人にとって適切な支援関係機関や地域の関係者等につなぎ、それらの関係性が安定した段階で支援終結

# 複合・複雑化した支援ニーズに対応する市町村の断らない包括的な支援体制の整備

- ◆ 市町村が、地域住民の複合・複雑化した支援ニーズに対応する断らない包括的な支援体制を整備するため、以下の支援を一体的に実施する事業を創設
  - ①相談支援(市町村による断らない相談支援体制)
  - ②参加支援(社会とのつながりや参加の支援)
  - ③地域づくりに向けた支援
- ◆ 本事業全体の理念は、アウトリーチを含む早期の支援、本人・世帯を包括的に受け止め支える支援、本人を中心とし、本人の力を引き出す支援、信頼関係を基盤とした継続的な支援、地域とのつながりや関係性づくりを行う支援である。



- 事業の概要について
- **対象者の考え方について**
- 事業の実施例について

# アウトリーチ等継続支援事業の対象者の考え方

## 他分野のアウトリーチ機能との協働

- 介護、障害、子ども・子育て、生活困窮分野で取り組まれている他のアウトリーチと協働・役割分担（※）をしつつ、重層的支援体制整備事業において取り組むアウトリーチは特定の分野を持たず、すべての住民を対象とする。

### ※ 役割分担の例

#### <アウトリーチ等事業が対応する場合>

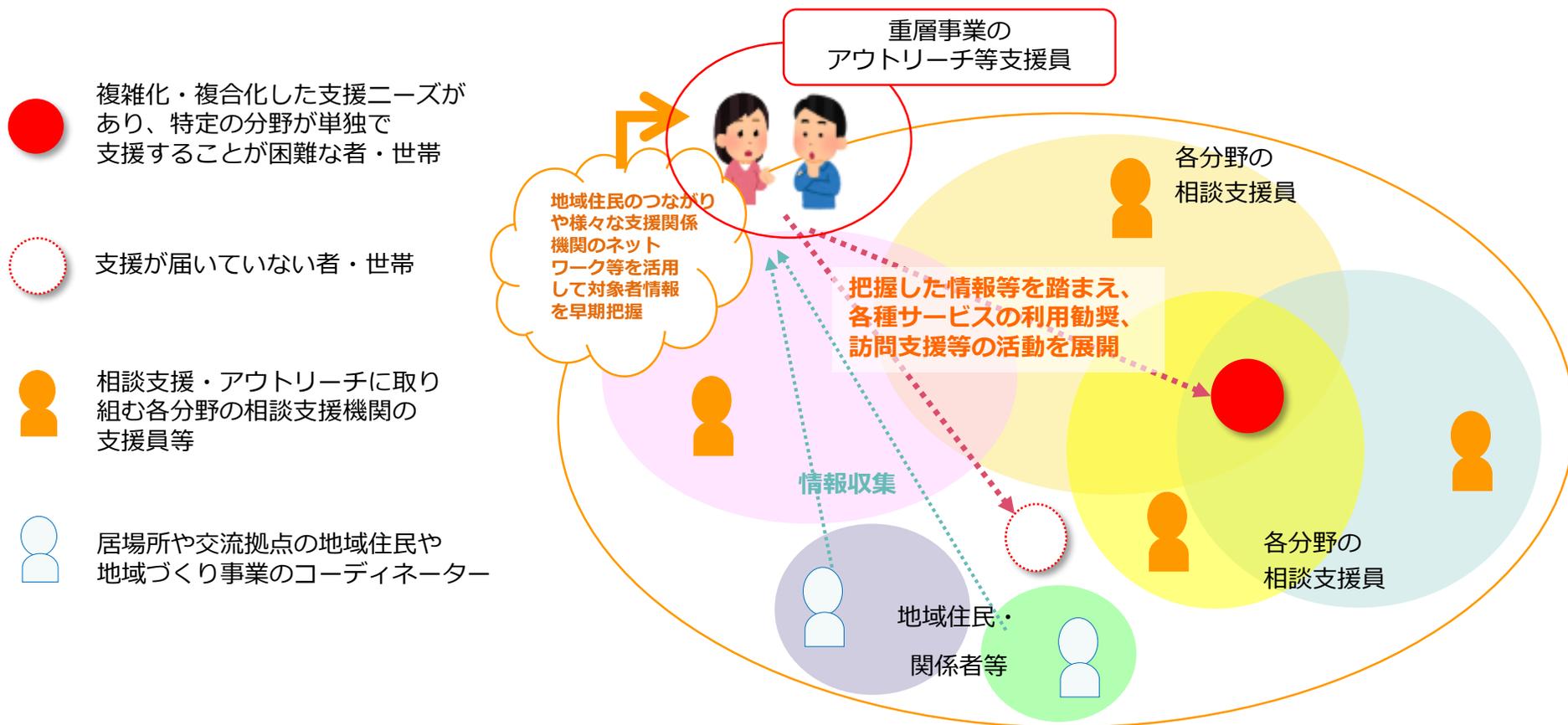
- ・ 複雑化・複合化した課題を有し、特定の分野が単独でアプローチすることが困難な事例
- ・ これまで各分野の支援機関でも支援対象者として把握されていないなど、いずれの分野の相談支援機関が対応することが適切か判然としない場合 など

#### <既存の各分野の支援機関が対応する場合>

- ・ 本人の属性等や事前の情報収集により、本人が抱える支援ニーズがある程度把握されており、各分野の支援機関がアプローチすることが適当な場合
- ・ これまでに各分野の支援機関で支援対象となっていたことがあるなど、本人との信頼関係の構築に向けて、各分野の支援機関がアプローチする方が適当な場合

# アウトリーチ等継続支援事業の対象者の考え方

## 対象者の考え方のイメージ

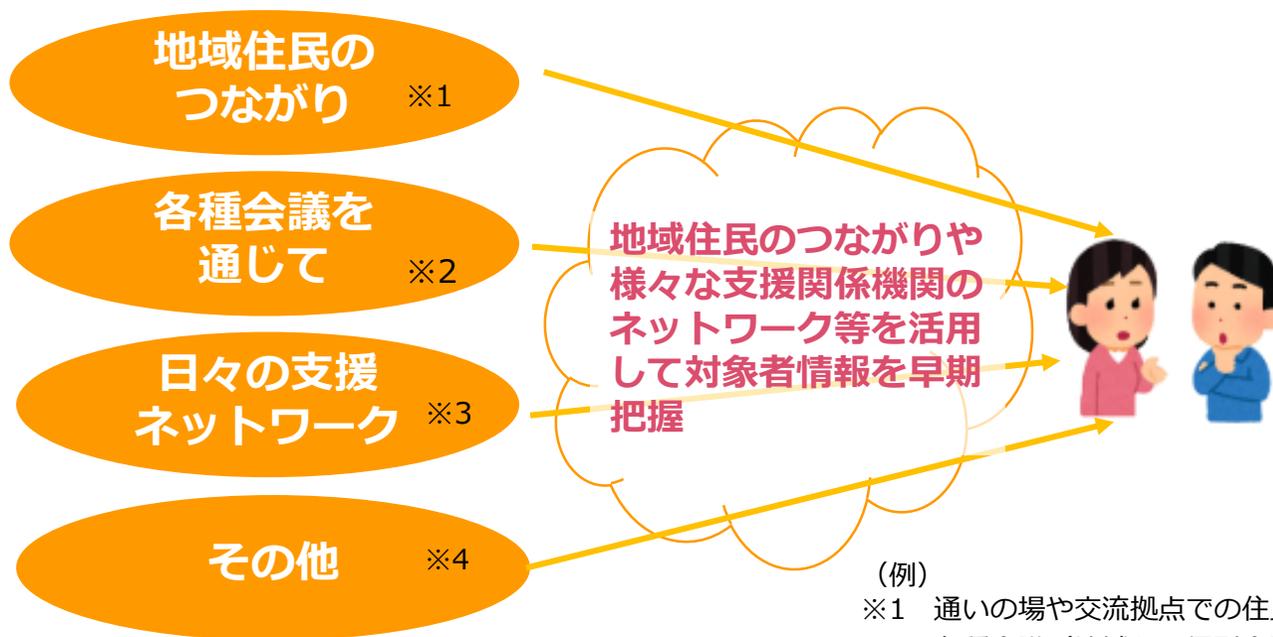


## 潜在的な相談者の把握に向けて

- 問題が深刻になる原因として、**本人や世帯が問題に気づいていない**、または、**どうすればいいかわからずに問題が放置されている場合**が考えられる。  
また、**既存の相談窓口を知らなかったり、思いつかない場合、相談に行くことに心理的な抵抗感がある場合**などもあり、相談に来るのを待つスタンスでは時間の経過とともに問題が深刻化してしまう恐れがある。
- 支援が届いていない者・世帯を早期に支援につなげていくためには、**地域の関係者や様々な社会資源を通じて、積極的に対象となり得る者の情報を収集**することが必要。
- アウトリーチ等を展開する上で必要な情報提供を受けるためには、地域住民が集まる居場所等をまわるなど、**日頃からの地域の様々な関係者と良好な関係性を構築**しておくとともに、情報提供の手段等を取り決めておくことが必要。

# アウトリーチ等継続支援事業における対象者の把握方法

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業につながる  
**入口は多様**に存在



※1 通いの場や交流拠点での住民同士の対話

※2 各種会議（地域ケア個別会議、要保護児童対策協議会、自立支援協議会、支援調整会議、支援会議等）の情報

※3 支援にあたり日頃連携している専門職、民生委員、福祉関係の事業所、医療機関、保健所等からの情報提供、

福祉以外の分野（水道、電気、ガスなどのライフライン関係従事者、新聞配達員、まちづくり関係職員等）からの情報提供

※4 全戸訪問、ICTを活用した安否確認、アンケート配布、SNSを活用した相談受付等による情報収集

- 事業の概要について
- 対象者の考え方について
- **事業の実施例について**

## 各自治体におけるアウトリーチの工夫について（事例紹介のキーワードのみ）

### ● 北栄町資料より

- ・町内5法人に事業委託 ・各法人が持っている地域とのつながりや強みを活かし潜在的ニーズの把握や支援が可能
- ・複数の立場や経験・視点を活かした支援策の検討が可能、福祉関係法人・町との連携強化 など

### ● 長崎市資料より

- ・多機関地域包括支援センター、生活支援相談センター、子ども・若者総合相談センターの3機関合同で研修会を開催し、潜在的な支援ニーズを抱えるものの早期発見に取り組む
- ・高等学校での「校内居場所カフェ」の開催・運営 ・庁内各課との連携（合同研修、協議会・連絡会を通じて） など

### ● 三股町資料より

- ・①情報の届け方、デザインを活用した入口設計、②対象に応じたきっかけ、  
③関係を構築する定期的接点（※主体的・肯定的）、④行動変容につながる丁寧な関わり など

○ 「アウトリーチ」を柔軟にとらえ、あらゆる社会資源を活用し、関係者の  
創意工夫のもと展開されるもの

○ アウトリーチの取組が充実するほど、潜在的な相談者の早期把握につな  
がるとともに、地域住民や支援関係者間のつながりが強化されるもの